

## 1. 河道断面を確保します

より一層治水と環境の調和を図りながら、河道断面確保のための整備を行います。断面積不足箇所については河畔林や自然の瀬と淵などに配慮しながら河道断面を確保します。河道断面に余裕のある箇所については自然の流れを保全します。

### 1-1 現況流下能力

流下能力とは河川で流すことのできる最大の流量です。河道断面を大きくすれば河川の流下能力も大きくなり、より大きな洪水に対して安全になります。

釧路川において、オソベツ川合流点(KP37.6)より上流付近における現況流下能力は、現在の暫定堤防で評価した場合には約 240 m<sup>3</sup>/s であり、戦後最大流量(昭和 35 年 3 月 標茶地点実績) 778 m<sup>3</sup>/s や既定計画の計画高水流量 1,200 m<sup>3</sup>/s と比較すると大きく不足している状況にあります。

表 2-1 現況流下能力の比較(KP37.6 ~ 39.4)

既定計画の計画高水流量 <sup>*1</sup>	1,200 m <sup>3</sup> /s
戦後最大流量 ( 昭和 35 年 3 月 標茶地点実績 )	778 m <sup>3</sup> /s
堤防完成後の流下能力 <sup>*2</sup>	約 600 m <sup>3</sup> /s
現況流下能力 <sup>*2</sup>	約 240 m <sup>3</sup> /s

\*1) 工事実施基本計画

\*2) 樹木を考慮した準二次元不等流計算モデルによる算定結果

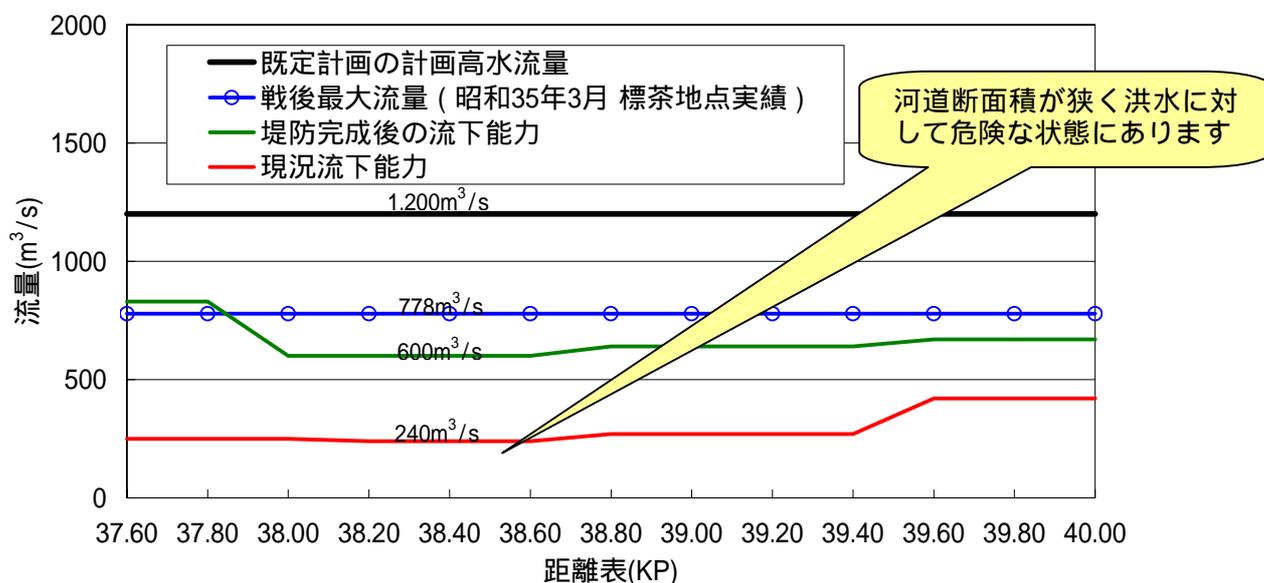
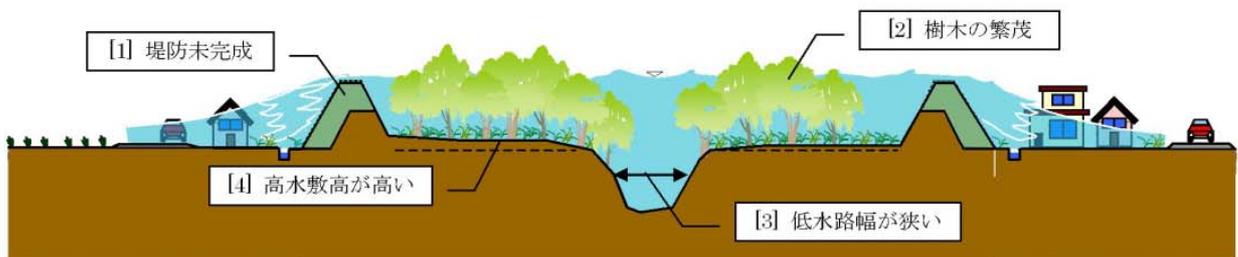


図 2-2 現況流下能力図

## 1-2 現況流下能力の不足要因

この区間で現況流下能力が不足している要因としては、堤防が未完成である点、左岸の高水敷に繁茂する樹木帯が流下阻害になっている点、低水路や高水敷の河道断面積が不足している点などが挙げられます。

流下能力の不足要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>[1] 堤防の未完成による河道断面不足</li> <li>[2] 高水敷に繁茂する樹木による流下阻害</li> <li>[3] 低水路幅が狭いことによる河道断面不足</li> <li>[4] 高水敷高が高いことによる河道断面不足</li> </ul>
-----------	--



現況流下能力不足を解消するためには、何らかの方法で河道断面積を拡大することが必要であり、これにより洪水氾濫に対する安全が確保できます。

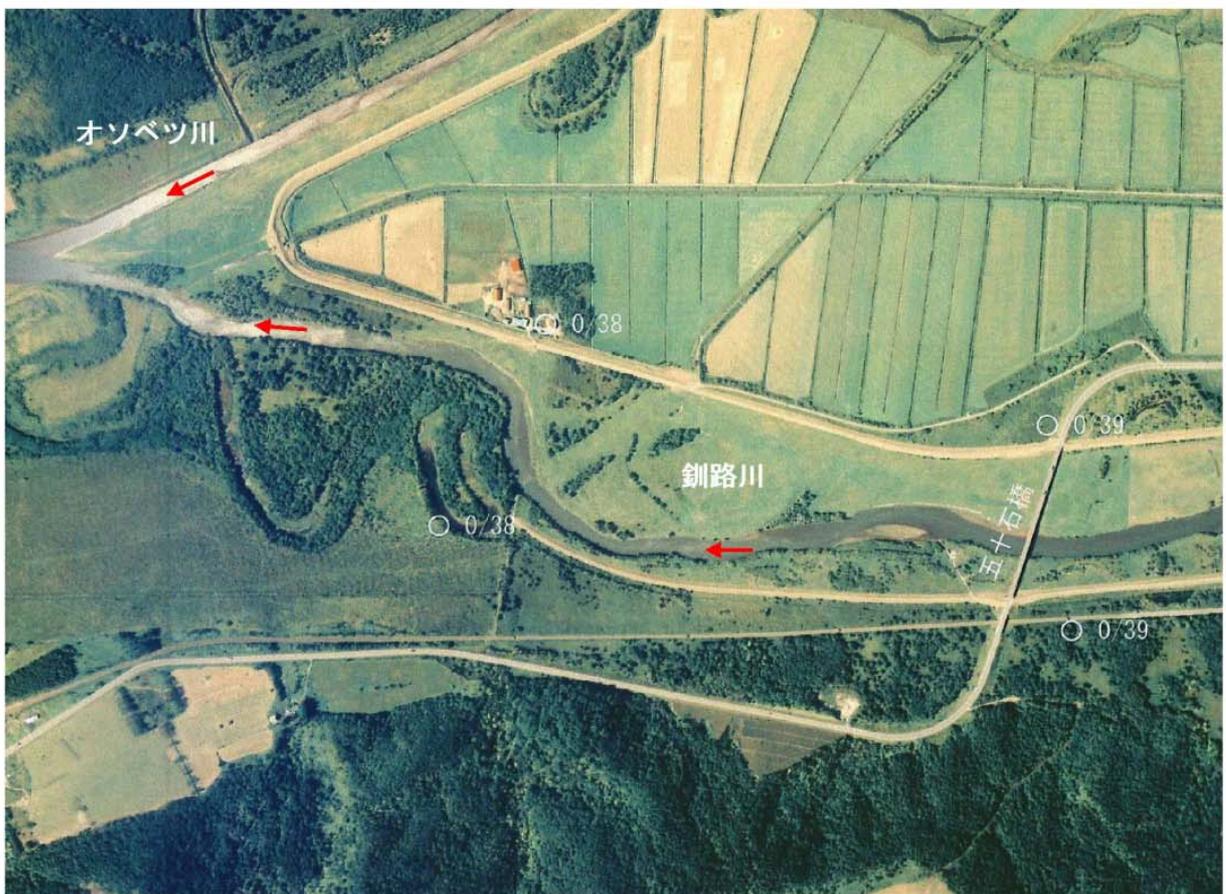


写真 2-1 流下能力不足区間の状況 (平成 8 年 11 月撮影)

### 1-3 河道改修における基本的な考え方

#### (1) 河川の自然な流れの尊重

これからの河道改修は、これまでのように画一的な形状とせず、河川の自然な流れを尊重する計画とします。

そのために、堤防の安全性確保の目安である堤防防護ラインを定め、低水路がこのラインより離れている場合については河川の自然な流れを尊重します。低水路がこのラインより堤防に接近している場合や今後堤防に接近する恐れのある場合については、植生や水生生物の生息環境に配慮した河岸安定化対策を講じます。また構造物上下流など低水路の安定化や堤防の強化が必要な箇所についても、同様に河岸安定化対策を講じます。

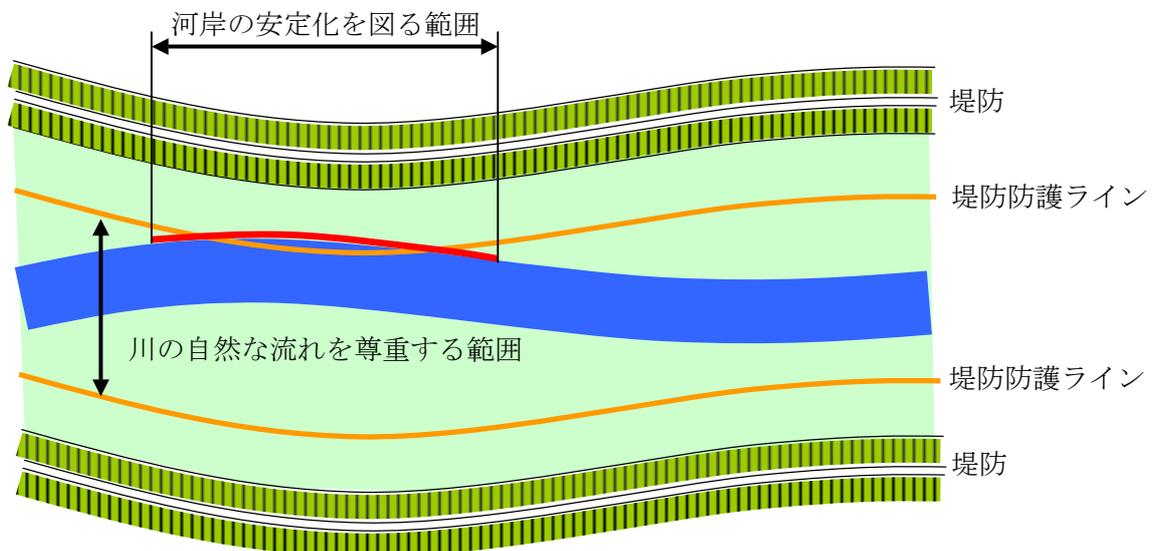


図 2-3 河岸の安定化を図る範囲

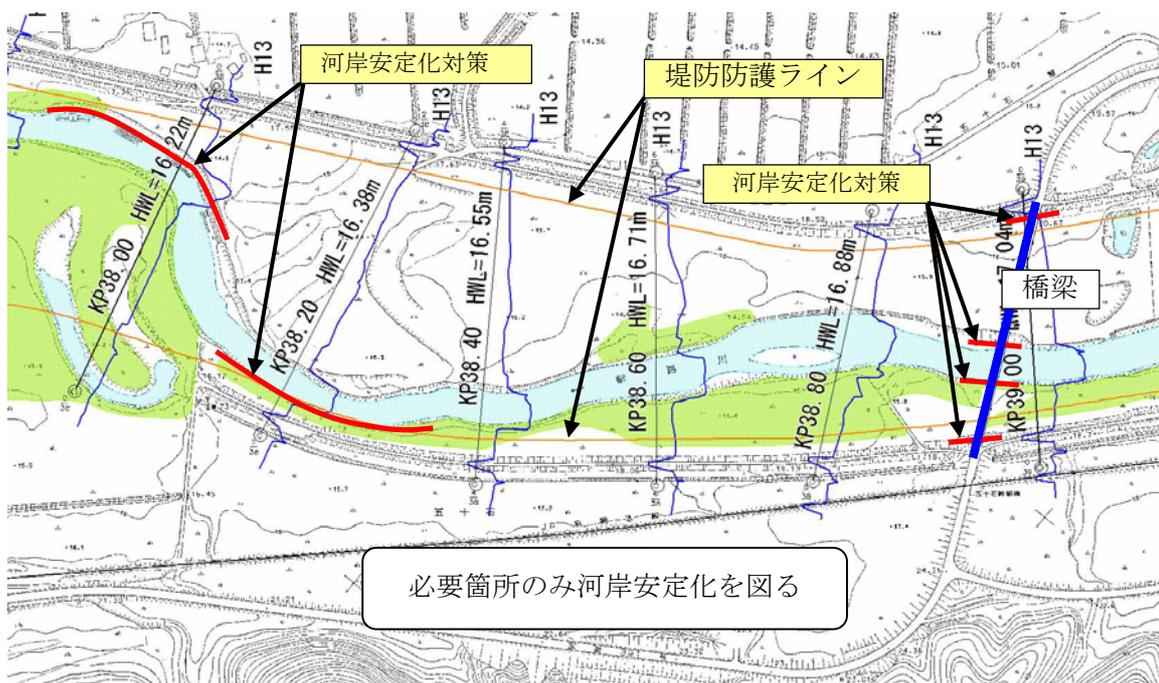


図 2-4 河岸の安定化を図る必要のある箇所の例

(2) 問題のない区間は現況を保全する

流下能力、河岸安定化の必要性、河道の低下・上昇など河川管理上の問題が生じていない区間については、現況河道を尊重することとして現況のまま保全します。

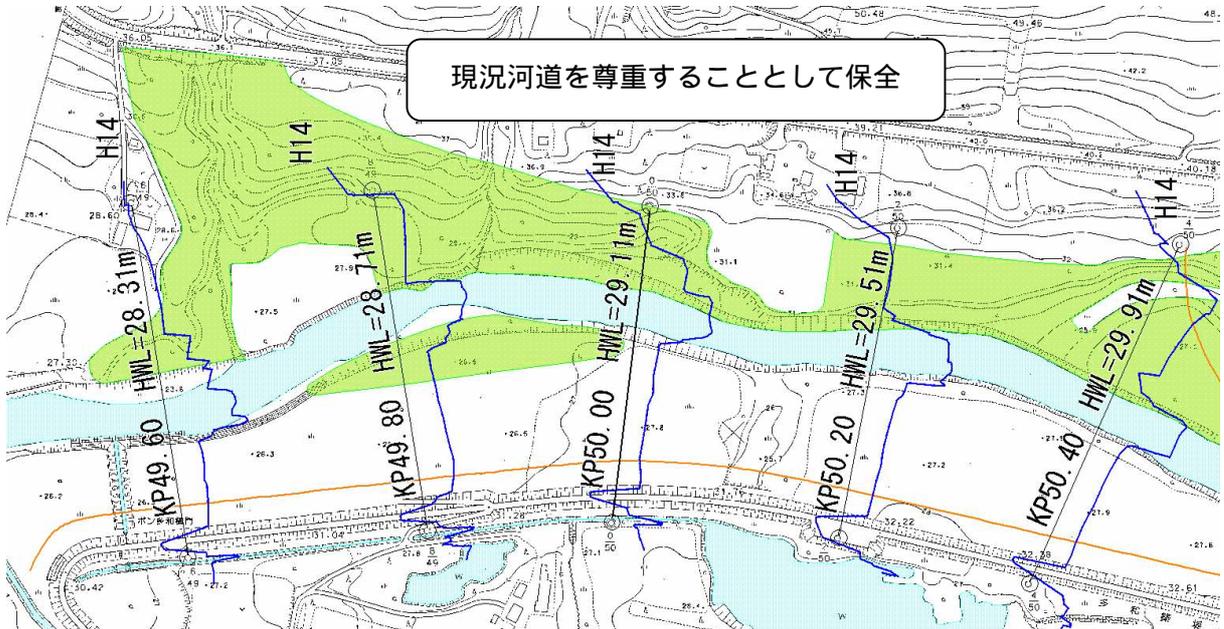


図 2-5 現況のまま保全する区間の例

### 1-4 1 河道改修計画の決定に至る考え方について ~暮らしと自然の共生~

河道計画は、「治水」、「環境」、「土砂」の観点から以下のとおり設定します。最終的な計画の決定は、複数の代替案について検討を行い、流下能力の確保と自然環境の保全・回復に関する妥協点を見いだしながら最適案を求めていきます。

#### 【治水】

- ・ 目標とする流量を安全に流下できる河道断面積を確保します。
- ・ 必要に応じて河道や河床の安定化を図る施設を配置します。

#### 【環境】

- ・ 生物の多様な生息・生育環境の場を確保することに努めます。
- ・ 現況河道を重視して画一的な形状とすることは避けます。
- ・ 川が川自身を作る作用を最大限に活用し、多様な河川形状を保全・復元することに努めます。
- ・ 河川は周辺の支川や水路、水田や樹木帯などのネットワークを形成しているため、上下流方向、横断方向の連続した環境条件を確保し、周辺とのネットワークを遮断しない計画とします。

#### 【土砂】

- ・ 土砂移動の連続性に配慮し、湿原への土砂流入や維持管理に配慮した、安定した川にします。
- ・ 洪水時の土砂流出については、河道内に一時的に貯留する施設や形状の工夫を行います。

